



CFI ニュースレター C2024-04 「ひとつ心になって」

「そして、あなた方のうちに良いわざを始められた方が、キリスト・イエスの日までにそれを完成してくださるに違いないと、確信している。」(ピリピ 1: 6)

「私はこう祈る。あなた方の愛が、深い知識において、鋭い感覚において、いよいよ増し加わり、それによって、あなた方が、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められる所のないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとを表すに至るように。」(ピリピ 1: 9 -11)

「あなた方が、一つの霊によって堅くたち、一つ心になって、福音の信仰のために、力を合わせて戦い、かつ、何事についても、敵対するものどもに狼狽させられないでいる様子を聞かせてほしい。」(ピリピ 1: 27.28)

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。」(第一テサロニケ 5: 16-18)

「また、よく言うておく。もし、あなた方のうちの二人が、どんな願事についても、地上で心を合わせるなら、天にいます私の父は、それをかなえてくださるであろう。二人または三人が、私の名よって集まっている所には、私もその中にいるのである。」(マタイ 18: 19 -20)

「神を信じなさい。よく聞いておくが良い。誰でも、この山に動き出して、海の中に入れと言い、その言った事は必ずなると、心に疑わないで信じるなら、その通りになるであろう。そこであなた方に言うが、何でも祈り求める事は、既にならされたと信じなさい。そうすれば、その通りになるであろう。」(マルコ 11: 22)

「信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ち上がらせてくださる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。」(ヤコブ 5: 15)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「ひとつ心になって」と題して、祈りの力と祝福についてお話しいたします。特に二人以上の信仰者が心を合わせて祈るときの素晴らしさについて学びたいと思います。祈りこそ、神によって生かされている私たちの信仰の表現であり証です。

年頭よりテモテ第二の手紙を学びました。それは伝道者パウロの最後の手紙であり、ローマの牢獄から送られた全世界のクリスチャンへのメッセージでもありました。世界の終末の近いこと、そして、彼自身の殉教の時が迫っていたことから、それは遺言であり、まさに彼の祈りでありました。今日はそれよりも前に、やはり牢獄の中から彼が書いたピリピ人への手紙を取り上げました。

人と人との信頼と愛情があったとしても、遠く離れて、今日のように電話をしたり、メールを送ったりすることができない時代にも、心をつなぐものは祈りです。祈りは、神と人をつなぎ、人と人をつなぎます。全く距離が離れていても、祈りの力は波動となって伝えられます。不治の病の人に医学の力が届かなくても、私たちの祈りは届きます。今世界が直面している戦争の痛みのためにも私たちの祈りは天に届くでしょう。神は私たちが祈ることを求めておられます。私たちの自己中心的な願事であったとしても、父なる神はそれを喜んでくださいます。信仰の力は、信仰者自身の超能力によるものではなく、神の動かされた御腕によるのです。

パウロは、ピリピの教会の人たちを思うたびに喜びに満たされ、祈りの中で彼らを育て導きました。祈りは、ある意味において音楽のようなものです。より研ぎ澄まされた感性によって、音色が変わり、より正確なリズムが放たれ、感動が与えられます。私たちの思いが神の御心とひとつとなったときに奇跡が起こるのです。

「今までは、あなた方は私の名よって求めた事はなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなた方の喜びが満ち溢れるであろう。」(ヨハネ 16: 24)

あなたの人生にも祈りの喜びが与えられますようにお祈りしています。

(お知らせ)

- * 「第一回喜びの歌を共に大阪集会」の記録 CD(2000 円) DVD (4000 円)がやっとできました。昨年の東京集会と内容はほぼ同じですが、ぜひ皆様に聞いていただきたいと願っています。
- * 5月6日 月曜日(振替休日)淀橋教会において「第二回喜びの歌を共に東京集会」が開かれます。これは声を合わせて一緒に歌う集いです。どなたでも参加することができますが、登録をお願いいたします。

「祈りの本質」



- * 祈りは、単なる祈願、願望ではありません。
神と人との交わりであり、私たちが神に捧げるべき感謝の本質的表現です。
- * 祈りは、祈りの文章や、祈りの態度も大切ですが、何よりも祈ることの積み重ねによって磨かれる信仰の表現です。発声法について、どんなに本を読んでも、実際に歌の練習をしなければ上手にならないように、実際祈ることなくして祈りを身に付けることはできません。
- * 祈りは信仰の裏付けなくして神に届く事はありません。信じて祈る。祈って信じる。神がそれを聞いてくださり、必ず答えてくださると確信して祈るのです。「そこであなた方に言うが、何でも祈り求める事は既にかなえられたと信じなさい。そうすればその通りになるであろう。」(マルコ 11: 24)
- * 祈りが力強くなるためには、聖書の御言葉を引用し、御言葉の約束を握って祈ることです。
- * 祈りは信仰を同じくする二人以上の人と心をひとつにする時、大きな力を発揮します。より強く神の愛の絆を実感することができるでしょう。
- * 私たちの心を祈りに導くのは聖霊の働きです。そして、私たちの祈りは、イエス・キリストを通して天に届くのです。ですから「イエスの御名によって祈ります、アーメン」と締めくくります。

[聖書が語る祈り]

①私たちの祈りは、万物の創造者であり、自然界の全てを導き、また私たちの人生の全てを支配してくださるお方、父なる神に対するものです。神は私たちが祈りを通して神に依存することを喜んでくださいます。ですから、祈りこそ、神に生かされている私たちの信仰そのものの姿なのです。

②旧約聖書を見ると、創造主である神とアダムとの交わりから始まり、偉大な指導者たち、アブラハム、モーセ、サムエル、イザヤ、エレミヤ、ダビデ、ネヘミヤ、ダニエル、その他多くの信仰者達の祈りを挙げるすることができます。しかし、後にバビロンによって神殿が破壊され、いけにえによる礼拝ができなくなったイスラエル民族にとっては、祈りと御言葉が神との交わりの手段でした(詩篇 138: 2、ダニエル 6: 10-11) それは今日も同じです。いかなる大聖堂で祈ることよりも、あなたの手にある御言葉と祈りによって、神との交わりを保つことができるという確信を持つ事は幸いです。

③主イエス・キリストの教えの第一は、父なる神であることを教えてくださったことです。私たちは神を父と呼ぶことが許されるようになりました(ヨハネ 1: 12)。真の祈りは、神の御前における崇高な営みでありますから、形式的ではなく霊的であり、自分の信仰深さを表現するようなものではなく、へりくだった幼な子のような祈りであるべきです。祈りは、何よりも主イエス様の祈りの生活から学ぶべきです。(マタイ 14: 23、マルコ 6: 46、ルカ 5: 16、22: 39-46 等)

④初代教会は、主の約束を信じて、待ち望む祈りから始まり(使徒 1: 14)、その目覚ましい進展と成長の背後には、キリスト者たちの祈りが常にありました(使徒 6: 4、12: 5、16: 25)。

パウロの手紙は、祈りのうちに書かれ、執り成しの祈りを強調し、諸教会のために祈り続けたことを伝えています。ペテロは苦難と週末の時代に「祈るべきこと」を教え(第一ペテロ 4: 7、5: 7-10)、黙示録は「主イエスよ、来てください」という祈りによって終わっています(黙示録 22: 20)。

⑤キリスト者の生活においては、祈りは不可欠です。祈りの生活こそ信仰の勝利の秘訣です(第一ヨハネ 5: 4-5)。日々の生活のどんな問題をも祈りによって解決していくことが重要です。

☆マルチンルターはある時、親友のメランヒトンが重病にかかったことを聞いて、早速駆けつけました。ルターは、彼の枕元で信仰を持って癒されるようにと祈りました。その晩、ルターは妻に、「神は、必ず私の祈りに答えてくださって、メランヒトンを今一度きつと健康にしてくださるに違いないよ」と、主にある希望を語りました。その時から、メランヒトンの病状は快方に向かい、まもなく主の働きに復帰することができました。そして、残る生涯、ルターとともに宗教改革のために尽くしました。

小田 彰